

令和3年度 学校評価総括(計画)表

香芝市立下田小学校

前年度の成果と課題		教育目標	主体的に学び続け、心豊かにたくましく生きる子どもの育成 ～まなびあい・そだちあい～					総合評価
・コロナ禍の中、制限の多い教育活動であったが、教職員間で検討し前向きに進めることができ、各分掌ごとに充実した取組ができた。 ・校務分掌内の連携を図り、課題を踏まえた具体的な取組を進め、実質的なPDCAサイクルを確立する。 ・各教員の得意や特性を生かした創意工夫のある授業づくりを進めるとともに、校内研修を中心に自己研鑽に努める。		運営方針	生命と人権尊重の精神を基盤とし、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を備え、人間性・創造性豊かな児童の育成を図る。					B
		本年度の重点目標	(1)「わかる」「できる」を実感させ、学習意欲の向上と学習規律・学習習慣の確率を図り、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を目指す。					
			(2)ありのままの自分を大切に思う気持ちと、誰かの役に立ちたいと言う気持ちが調和した自尊感情を醸成するとともに、生活規律を身に付けさせる。					
			(3)進んで運動しようとする運動習慣の育成に努めるとともに、望ましい食習慣と自己管理能力を身に付けさせるための食育の充実を図る。					
学校経営	評価の観点		I	II	評価	成果と課題(評価の分析)	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
学校運営	① 教育目標や指導の重点を全職員が共通理解し、それらの実現に向けて取り組んでいる。		B	B	B	2年続きのコロナ禍の中、指針に則した感染症対策を取りながらの教育活動ではあったが、教職員間で共通理解を大切にすることができた。各分掌においても子どもの安心・安全を最優先にした活動が計画され、制限のある中での取組ができた。 1回の授業参観と運動会しか保護者が学校の様子を直接見る機会がなく、情報発信はもう少し充実すべきであった。 校務PCが配備され通知表や出席簿、指導要録等の校務は効率化が進んだ。	学校運営協議会等、コミュニティの力を積極的に取り入れ学校運営を活性化させる必要がある。コロナ禍における対応や、本年度の総括を踏まえた具体的な取組の充実のため、地域の教育力や御意見を学校運営に反映させる取組を進めていく。 また、働き方改革を一層推進するための業務改善に取り組む。膨大な学校業務の効率化に向けて、校務分掌等の見直しを進める。 そして、教職員の学校運営参画意識を高め、「チーム下田」の一員として協働することの大切さを浸透させたい。	地域の意見を学校運営に生かしていくなど、さらに連携を深めていくことが望まれる。しかしながら一方で先生方は多忙で、ともに意見を交流する機会がとりにくいという現状がある。コミュニティの組織にPTAの方々にも入ってもらったり、部会を減らしたりするなど、活動しやすい組織に変えていくのも一案である。
	② 校務分掌部会や学年会を適時に実施している。		B	B				
	③ 校務分掌において、前年度の総括・課題等をふまえ、新たな提案や改善をしながら取り組んでいる。		B	B				
	④ 家庭への様々な啓発活動を通して、学校や学年・学級の取組を保護者に伝えている。		B	B				
	⑤ 地域や保護者、コミュニティからの意見を学年や分掌で共有し、改善に生かしている。		B	B				
	⑥ 児童や学校の実態をふまえた特色ある教育課程が編成されている。		B	B				
	⑦ 働き方改革の推進に向けて、学校の業務改善に取り組んでいる。		C	C				
学習活動	① 下敷き「学習ルール6」を毎日携行させ随時利用し、意識の徹底を図っている。		B	B	B	学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びを目指した学習活動が実施できた。コロナ対応でペア学習やグループ学習には制限があったが、ICTを活用した新たな学び方を実践することができた。各学年とも家庭学習の習慣化と学習内容の定着を図るための課題を適切に課すことで、児童に望ましい学習習慣が身についた。 めあてを明確にした授業づくりを行うとともに、ICT活用を積極的に推進して、授業の充実・改善を図っていきたい。	次年度も引き続き、学習のめあてを明確に示した授業づくりが標準型であるという意識をもって指導に当たるようにする。GIGAスクール構想実現のためのICTの活用は必要不可欠ではあるが、あくまでも授業改善のためのツールとして使い、研修を中心とした教員の授業力向上を重視する。 読書については家庭においても本を読むようとする児童が増えるよう、取組を工夫する。	子どもは読書をよくしていると答えている。楽しんで学んだことは身に付くだろう。読書に対する親の評価はよくないが、子どもは一生懸命しているのだから、親の主観を入れずに認めてあげてほしい。
	② 家庭学習充実のため、毎日、何らかの適切な課題(宿題)を与えたり、学習活動に生かしたりしている。		A	A				
	③ 「わかる」「できる」ための指導を工夫するとともに、わかりにくい点があれば質問しやすい環境がとられている。		B	B				
	④ めあてを明確にした授業づくりを展開している。		B	B				
	⑤ 様々な読書活動を通して、読書が好きになる子どもが増えている。		B	B				
	⑥ 子どもの心に響く道徳の授業にしていこうための指導法の工夫を積極的に行っている。		B	B				

生徒指導	① 「あいさつ」をされる前に自分からする児童が増えている。	B	C	B	児童は学校生活のルールを守り、落ち着いた学校生活を送ることができている。 あいさつを「自分から」するのは難しいようであるが、少しずつ増えているように思う。粘り強く指導する。	学校全体であいさつの輪が広がるように教職員が率先してあいさつをする。また、ニコニコあいさつの日の取組を拡充して、子どもたちにあいさつすることの気持ちよさを実感させる。	子どもから挨拶はいつも返ってくる。大人の受け止め方を柔軟にする。ゲーム感覚で挨拶の輪が広がるような工夫をしてはどうか。
	② それぞれの清掃場所の清掃の仕方を具体的に伝えている。	B	B				
	③ 「わたしたちのくらし」や下敷き「生活ルール5」等を繰り返し活用し学校の生活ルールが身に付いてきている。	B	B				
保健指導	① 運動遊びに関心をもち、進んで体づくりに取り組む子どもたちが増えるように、取組の工夫が行われている。	B	B	B	感染症対策として、マスクの着用・手洗いの徹底を今後も指導する。外遊びの取組は、マスクの着用に十分留意しながら進める。	様々な制約はあるが、子どもが夢中になるような体育の授業づくりを推進し、運動好きな子どもを育てる。	運動好きな子どもの育成を積極的に進めてほしい。
	② 指導の工夫等により、望ましい食習慣や保健習慣が身に付いてきている。	B	B				
人権教育	① いじめや日頃のトラブル子どもの悩み等について、児童の話に耳を傾け、丁寧に内容をつかみ、共有化している。	B	B	B	児童の話を丁寧に聞き取り、解決に向けて適切に対応するとともに、必要に応じて教員間の連携ができている。	教職員の人権感覚・人権意識を高めるとともに、日々の生活の中にある差別やいじめに気付き、なくそうとする児童を育てる。	いじめをなくす取組を今後も継続してほしい。
	② 自尊感情と相手を思いやる心を育む具体的な取組を行っている。	B	B				
特別支援教育	① 一人一人の学び方の違いに配慮した指導や支援をしている。	B	B	B	一人一人の児童の実態や特性、ニーズに応じた支援及び指導を教員間で情報共有しながら取り組むことができた。	今後も校内サポート委員会を定期的に行い、支援が必要な児童の情報共有を進め、指導に生かすようにする。	支援が必要な子どもに対する情報共有・指導体制などは、一層充実させてほしい。
	② 校内サポート委員会が適時に行われ、児童の理解や指導に生かされている。	B	B				
特別活動	① 学級活動・児童会活動・委員会活動・集会活動が児童の主体的・自主的な活動として行われている。	B	B	B	児童の主体性を重んじて計画・実施されている。	学校生活の基本単位である学級での学級活動を充実・深化させる。	子ども主体の活動を、今後も進めてほしい。

評価はA・B・C・Dの4段階